

[課題演習抄録]

社会の形成者としての資質・能力を育成する小学校社会科学習デザイン  
—「意思決定」と「合意形成」に着目して—

芋生 潤  
Jun Imoo

福岡教育大学大学院教育学研究科教職実践専攻教育実践力開発コース

キーワード：意思決定，合意形成，学習デザイン

1 研究の目的

本研究は，社会科教育の方法論として意思決定と合意形成に着目し，社会の形成者としての必要な資質・能力を育成することのできる小学校社会科学習デザインの開発と実践を目的とする。

2 研究の計画

MS 2	意思決定と合意形成を手段・方法として取り入れ，社会の形成者としての必要な資質・能力を育成する小学校社会科学習デザインの先行研究・授業実践・授業分析
MS 3	MS 2での授業実践における課題・成果を踏まえながら，さらなる先行研究・授業実践・授業分析

3 研究の内容

(1) 先行研究

小原（1994）は意思決定力を「目的・目標を達成するために考えられるすべての解決策の中から，より望ましいと判断できるものを選択・決定することのできる能力」としている。また合意形成について吉村（1996）は，「対話を通じて得られた共通理解を判断基準として，対話状況を解消する」と定義づけている。さらに峯（2012）は意思決定型の授業に関して，「個人・集団において必要とされている技能をためす場・経験の場であるため討論が中心的方法である」と主張している。本研究では，意思決定を課題や問題に対して，様々な行動を考えて，個人でよいと思うものを選んで，決定すること

であると捉え，合意形成を個人の判断ではなく，個人の判断と個人の判断を対話によって集団の判断とするということであると捉える。

(2) 実践授業

小单元名	平和で豊かな暮らしをみざして
本時	5 / 8
実践日	令和2年12月23日
学習者	A市立B小学校6年生 31名
主眼	1952年日本が独立し，平和で民主的な国家を目指す上で，重視する政策について，様々な価値を考慮しながら価値判断意思決定することができる。

(3) 実践（授業分析）考察

a. 意思決定について（授業分析の視点①）

53F	私は外交を選びました。理由は，アメリカの外交じゃアメリカのことしか分からなくなって，他の国との関係をしたら，教育も経済も発達していくからと思ったからです。（中略）
59D	では外交どうぞ
60H	私は外交がいいと思いました。理由は戦争を二度と起こさないために，外国との交流をやったほうがいいと思ったのと，外国との貿易を進めたら，経済を回すことができると思ったからです
61D	はい，では教育いきます
62H	どうぞ
63D	僕は教育が必要だと思いました。理由は，これからの日本をよくしていくのは子どもだから教育を重要視しないと経済も外交も悪くなる一方だからです
64F	おーなるほど
65D	次はどっちがいう？じゃIさん
66I	僕は教育を選びました。二度と戦争を起こさないために重要だと思ったからです
67D	わかりました
68J	私は教育がいいと思いました。理由は戦争が起こったからみんなに戦争の怖さを知ってもらい，二度と戦争が起こらないようにするためです。

資料1 TC記録①

53Fや60H，66I，68Jの発言を見てみると，資料を基にして自分の考えを構築することができている。例えば60Hはこの時期にアメリカとしか交流がなかったため，それでは今後また同様の戦争を起こすという危惧を踏まえて他国と交流する，所謂外交を進めることで，戦争をな

くすとしている。これは現代の外交にもつながる考え方であり、これまで学んだことを過去の意味決定に活かそうとしていることがわかる。また 66 I や 68 J は戦時中と戦後の資料を比較して、戦前の教育の問題点を踏まえつつ、教育のあり方そのものについて考えを深めようとしていることが窺える。63 D は資料に基づいて考えを示すことはできていないが、教育のメリットに視点を当てて自分の考えを構築することができており、独立後のよりよい教育のあり方について、他の政策より優位な点について述べている。

#### b. 合意形成について (授業分析の視点②)

81 F : 外交が重要視できなかつたら、なんかその一人だけ一つだけ日本だけ一人ぼっちになるから  
 82 H : あーなるほど 83 F : ついていけないというか  
 84 J : 独立? 84 C : (H児) 孤独孤独  
 85 F : そう独立(中略)  
 90 D : えーっとこれからの日本を良くしていくのは、子どもだから教育を重要視しないと結果経済も外交も悪くなる  
 91 H : あー (中略)  
 114 D : だから教育はこの日本をこれからの日本をよくしていくのは子どもだから教育を重要視していかないと経済も外交も悪くなる  
 115 H : だからはいはいはい反論  
 116 D : どうぞお願いします  
 117 H : えっと外国との交流をすると、あ違った貿易をすると経済も回りますね。そうすると教育もできるよになるということですよ。  
 118 D : おおなるほど  
 119 H : わかった? 120 : 外交を  
 121 H : 外交で貿易をすると日本の経済が回ってその経済が… (中略)  
 124 D : 外交はまあ一わかりましたけど教育は先も見据えているから先も見据えているから先も見据えているから

#### 資料2 TC記録②

この分節は、独立後の優先すべき政策が「外交」「経済」「教育」の優先議論が進んでいる。117 H の経済優先論を受けて D 児は 118 でその発言に同意しつつも、124 では「先も見据えている」ことを3回も繰り返しながら、教育の重要性について述べている。ここでは、D 児の明らかな合意とは認められないが、H 児の117 外交(貿易)をすることで国にお金が回り豊かになり、教育が十分に受けることができるよになるよといった考えに賛同しつつ、「外交はまあ一わかりましたけど」(124)と一旦受け入れる姿勢が見て取れる。これまで単に対立するだけだった D 児の変容が窺える。また D 児が上記の議論を通して、教育を出発点として経済を回すことや外交の基盤を強くすることに目を向けるようになったことが合意の芽生えであると推察することができる。

#### c. 合意形成について (授業分析の視点③)

1N : 僕は経済にしました。自由に売買したり、平等にしないといけないし、格差をなくしたいと思ったからです

2A : 自由に売買できるようになるとるやん

3N : え? 4A : できんかったっけ?(中略)

30A : 教育をしようたらさなんか確かにすぐには効果はこんけど、ちゃんと勉強したら優秀な人材が育つてのちのち景気も日本の経済もよくなっていくやん 31A : ななな ねねね Nさん

32N : そうやね 33S : あー

34A : やけんやっぱり教育が優先やん 戦争とかもしないために平和で独占的な人を育てないために教育に力を入れて平和で民主的な人を育ててのちのち経済とかわからんけど民主的な平和 平和と民主的がわかる人 そういう人材を育てるためにやっぱり教育は大事だと思います どうですか

35C : わかりました

36A : やっぱり経済も大事やけどまず勉強しないと経済も動かんやん でそもその問題ね

37N : うーん 38S : あー

39S : なんか1番教育がいい 40N : そうやね

#### 資料3 TC記録③

2 A は戦後改革による経済の変化について前時の既習内容を活かして、自分の考えを述べている。また、30 A では、早急に目の前の変化を求めるのではなく、これから平和で民主的な国家を目指すためには、教育という、すぐに効果は見られないが、時間がかかっても確実に効果がでるものを主張している。ただ頑なに教育を主張しているように見えるが、経済や外交の重要性についても言及しつつ、合意点を模索していることが窺える。

### 4 成果と課題

- 個々の主張に対して納得できる点とできない点を示させ、それについて議論したことで、徐々にではあるが合意に向かう姿がみられるようになった。
- 合意できる点とできない点を明確にしたが、その理由は何かを示すことができなかったため、個人の判断に留まったことが課題である。
- 学習デザインの際に、単元を通して模索していく「合意のステップ」を、学習者の思考を踏まえながら明確に想定しておく必要がある。

#### 主な引用・参考文献

- 小原友行 1994 「社会科における意思決定」『社会科教育学ハンドブック』社会認識教育学会編 明治図書
- 吉村功太郎 1996 「合意形成能力の育成をめざす社会科授業」全国社会科教育学会『社会科研究』第45号 41-50頁
- 峯明秀 2012 「社会科における意思決定」『新社会科教育学ハンドブック』社会認識教育学会編 明治図書